

明大拳法部通信



Volume 7

2010年 1月

発行元 : 明大拳法部
住所 : 〒101-8301 東京都千代田区神田駿河台1-1
編集責任者 : 宮下洋輔
編集者 : 市村真美 浦口尚樹

第五十四回全日本学生拳法選手権大会 またも王座奪還ならず!

今年11月29日に大阪府立体育館で開催された第54回全日本学生拳法選手権において、明治大学拳法部は関西大学に破れ準優勝に終わり、王座奪還には今一步届きませんでした。



部長先生のご挨拶



部長 秋谷紀男

日頃から、明治大学体育会拳法部に対し多大のご支援を賜り感謝申し上げます。二〇〇九年度は一ノ宮新監督のもとで、コーチ陣、尾川主将、学生が一体となって全日本学生拳法選手権大会優勝の奪回に向けて精進してきました。残念ながら、二年連続の準優勝に終わりましたが、練習の成果を充分に発揮したと思います。さて、私は十数年振りにランニングを健康維持のために再開し、東京マラソンにも出場しました。完走タイムはともかく、四十二・一九五キロをこんなに楽しく走ったのは初めてでした。とくに、浴道からの声援、エイドステーションの充実には感動さえ覚えました。スポーツとは選手とそれを応援している人たちが成り立つものだと思いを新たにしました。拳法部が今日あるのも、選手達の精進はもちろん、それを支えるOB達の応援や常日頃の支援の賜物だと思えます。学生たちには、来年に向けて、更なる精進を重ねてくれるものと期待しております。OBの方々には、今年度もご支援をお願い申し上げます。

副部長先生のご挨拶

努力の大切さ



副部長 北野 大

先日、明治大学野球部のOBで、プロ野球でも全球団から勝ち星を挙げるといった素晴らしい活躍をした武田さんと会食の機会が有りました。席上、どのようにしたら武田さんのような一流の選手になれるかを伺いました。私自身は「才能」と「努力」という答えを考えていましたが、武田さんは「努力」がすべてという返事をくれました。確かに世の中で一流と言われる人はみなさん努力をしています。才能のあるなしも大事ですが、やはり努力がすべてを決めていると思います。私は自分のスポーツの才能は全くゼロと思ひ込み、努力をしてみてください。その拳句、ゴルフは20年やってもスコアは120前後です。もう少し早く武田さんにお会いし、スポーツでも努力が大きな要素に

会いし、スポーツでも努力が大きな要素になっていると伺っていただくと、悔やむばかりです。残念ながら、私にとっては時すでに遅しですが、選手のみならずには武田さんの言葉を信じて学業と拳法の稽古に努力してください。「努力は嘘をつかない」といいますので。

監督挨拶



明治大学拳法部監督

一ノ宮孝

明けましておめでとうございます。

新年度を迎えるに当り、この一年監督として、感じた事、思った事を述べて、今後の行動指針にしたいと考えています。

一、前監督に対する思い

清水監督、長い間本当に御苦労様でした。監督生活、二十一年間は余りにも長い！

拳法部の監督として人生の一番大切な時間を家族や私生活を犠牲にして、雨の日も風の日も大学関係からOB会、学生の練習から、拳法関係の全てに頑張っ

られました。一つ一つの出来事が、その姿が、目の前に走馬灯の如く蘇ってきます。改めて、その長い年月の努力に對して、感謝の気持ちと敬意を表したいと思えます。又その志を継ぎ、現在の明治大学の運動部に求められる新しい時代に対応した指導体制を確立し、次の世代の育成に努めたいと考えます。

二、大学(スポーツ振興事務局)と運動部との関わり

ここ数年の大学当局の体育会に対する積極的な姿勢は予算の増加、推薦枠の拡大等、色々な面に見られますが、最大級の出来事は数年後に完成するアマチュアスポーツ界最大の明治大学屋外スポーツセンターの建設であり、場所は明大前より京王線で三十分程のところ約玉万坪の規模でラグビー、サッカー、アメフト、陸上等、屋外競技を一カ所に集め、合せて総合合宿所、総合体育館も建設しております。わが拳法部も練習場、合宿所、推薦枠の問題等、重要な数年になる事は間違いありません。大学当局との関係を密にして、拳法部の発展に努めてまいりたいと考えています。

三、監督として

創設者の安岡顧問をはじめ溝内・真野両御大、多くの先輩諸兄が、努力して築いた拳法部の歴史、伝統を守るべく、下記の点を自覚し、努力致したいと考えています。

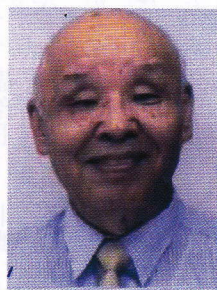
一、明治大学体育会の一員として、野球、ラグビー等メジャーな運動部に比較して、恥ずかしくない拳法部をつくり次の世代に引き継げるようにする

二、常に全国優勝を目指し、指導体制、練習内容を工夫し全国の大学拳法の世界においてリーダー格としてお手本となるような拳法部をつくりたい

三、明治大学の学生として、拳法の精進のみならず、学業にも励み、文武両面にわたりバランスのとれた学生を育てたい

以上、実行すべく努力してまいりますのでご指導・ご鞭撻の程よろしく願います。

前監督挨拶



明治大学拳法部前監督

清水徹太郎

監督在任二十一年間 本当にお世話になりました。

昭和六十二年(一九八七)に明治大学体育会拳法部の監督就任を要請され、本年三月に辞任するまでの二十一年間公私に亘りご支援、ご指導を賜りました。前向きに諸問題解決に尽力いただきました四名の部長先生、多くの先輩諸氏の叱咤激励、数多くの先輩、後輩、いろいろな悩み・愚痴を快く聞き、励ましてくれたコーチ陣、練習に参加する為多くの便宜を図ってくれました。

会社の上司、子供の教育も任せきりで家庭を殆ど省みない小生に愚痴をこぼしながらも連れ添ってくれた家族等の支援があったからこそのお蔭と心から感謝いたしております。

とりわけ 監督就任時からの十二年間は 関東大学リーグ戦はそこそこの戦歴でしたが、拳法部にとり、長年の悲願である「全日本学生拳法選手権大会」に優勝するとの夢は最高の成績が四回戦、殆ど一く二回戦で敗退して毎年、悔しい思いをしてきました。拳法部五十年史にも記載致しましたが、高村コーチ(当時)試合の応援に駆けつけていただいたOB、ご父兄を寒風吹く府立体育館の入り口付近で待つ悔しさは今でも忘れません。この試練の時期に 今でも私の胸深く感銘を与えていただいたOBと部長先生がいます。溝内先輩(当時 OB会長)、真野孝志先輩(後のOB会長)と吉田悦志(当時 部長)でした。

溝内先輩はいつも試合後、独特の言葉で「もう少しだ、来年は勝てるぞ」と毎年、毎年語りかけて頂きましたが、ややもすると負け犬根性が芽生えそうになる弱い心にどれほど感動を受けたか分りません。

真野孝志先輩は常に懐は深く正面から何事も受け止めていただき、間違ったことは大嫌いの性格でした。間違ったことには、顔を真っ赤にして叱っていただきましたが、当時は仕事、私生活で真剣に叱られる事はありませんでしたので、この世で一番怖い存在でした。拳法、私生活に真摯に取り組まれている故のことと理解したのは後になってからでした。

吉田悦志(当時 部長)も十年間に亘り拳法部躍進

につながったスポーツ推薦制度の確立に大変なご尽力を頂くと共に部員の大怪我に対する父兄への対応、数々の難問題を親身になって解決頂きましたが、今でも感謝の気持ちには変わりません。

この様な多くの明治大学拳法部をご支援いただいた皆様のお蔭で、昭和四十二年の第十二回大会から数えて三十二年振りの第四十四回大会に優勝、四十五大会、四十六回大会と三連覇を達成、二年間後 四十九回く五十一回の二度目の三連覇を達成致出来たと思っております。

ここ三年間、関西の強豪関西大学に二度優勝戦で敗れていますが、心気一転後任の一ノ宮孝監督がリベンジしてくれると確信しています。大変な読書家で、心も優しい現場を第一主義の信頼出来る男です。幸い下級生に逸材も育てていますので、彼の指導で二く三年後が大変楽しみです。

今後共時間の許す限り支援させていただきます。今後共宜しくお願い申し上げます。



第54回全日本学生拳法選手権大会

詳細結果

(12・29 大阪府立体育館)

迎えた準決勝、相手は同じ関東勢の中大。春、行われた東日本リーグ戦では、3勝3敗1分。しかし中大が早大に敗れたため明治が見事優勝を果たした。続く秋の東日本大学選手権では決勝で相まみえた本学と中大。またも3勝3敗で並んだため、試合は代表戦にまで進んだ。結果、代表戦で敗れた本学は2位。中大が冠を制した。両試合ともに接戦ながら、今年はまだ一度も中大から星を奪えず、それどころか2年前からあと一步で勝利を逃してきた明治。両校が自他ともに認めるライバルであることは間違いない。

先峰戦、西野(政経2)が中大、細野(中大)に1本を守り切れ惜敗すると、続く次峰戦は誰がこのカードを予想したであろうか。両校エースがぶつかり合う波乱の次峰戦となった。尾川主将にとって今年のインカレ王者、浜田(中大)は東日本大学選手権の代表戦で敗れた因縁の相手。「2人とも先峰か大将でしかほとんど出たことのないのにお互い戦略上偶然、次峰であたった。運命を感じる」と尾川主将も語る。試合はお互い探り合うように始まった。小刻みにリズムを刻む尾川主将と、ずっしり構えてじりじり込み寄る浜田。「絶対勝つてよ!」。4年間一緒に戦ってきた市村マネジャー(文4)からも激が飛ぶ。中盤何度も決まっと思われた拳があったが、ことごとく審判に取り消される。その度に監督、コーチが両手を上げて審判にアピールする姿が印象的だった。打つても打つても取り消される拳に尾川主将は「拳をケガしていたからパンチを繰り出すのが怖かった。だからパンチのタイミングもずれて、なかなか審判に1本取って貰えなかったのだと思う」と分析する。試合はその後も硬直状態が続いた。

残り1秒、浜田の面に向かって尾川の拳が大きく振り下ろされたが、審判の旗が上がることはなかった。尾川主将は納得いかなかったかもしれない。しかしこの引き分けは「勝ち」に等しい価値がある。尾川主将の引き分けで流れに乗った明大はこの後、怒涛の反撃を見せる。神田、岡部(文1)、後山が立て続けに勝ち星を上げると、副将矢島(文4)が惜敗するも大将平松(法1)がルーキーながら、落ちていて相手をさばき完勝。今年一年乗り越えられずに苦しんだ中大の厚い壁をついに攻略した瞬間だった。喜びに沸く明大サイド。

この1年間追い掛け続けた府立優勝まであと1勝:

・2回戦

○明大	5-2	愛知学大
先鋒	○神田	2-1 小池
次鋒	○岡部	2-0 梅林
参鋒	平松	0-2 浅野○
中堅	○後山	2-0 小林
参将	遠藤	0-2 服部○
副将	○矢島	2-0 村瀬
大将	○尾川	2-0 大和

・3回戦

○明大	5-1(1分)	近大
先鋒	○神田	2-0 古田
次鋒	岡部	0-2 平島○
参鋒	○平松	2-0 谷口
中堅	○後山	2-0 中川
参将	△加茂	1-1 佐々木△
副将	○矢島	2-0 田中
大将	○尾川	2-0 高橋

・4回戦

○明大	5-2	大学大
先鋒	○神田	2-0 日島
次鋒	岡部	0-2 梶谷○
参鋒	○平松	2-0 股野
中堅	○後山	2-1 河野
参将	西野	0-2 家舗○
副将	○矢島	2-0 川端
大将	○尾川	2-0 村上

準決勝

○明大	4-2(1分)	中大
先鋒	西野	0-1 細野○
次鋒	△尾川	0-0 浜田△
参鋒	○神田	2-0 上羽坪
中堅	○岡部	2-1 東田
参将	○後山	1-0 木下
副将	矢島	0-2 安武○
大将	○平松	2-0 佐藤

・決勝

明大 2-5 関大 0

先鋒 ○神田 2-0 辻

次鋒 ○尾川 2-0 矢塚

参鋒 平松 0-2 田邊○

中堅 岡部 0-2 東○

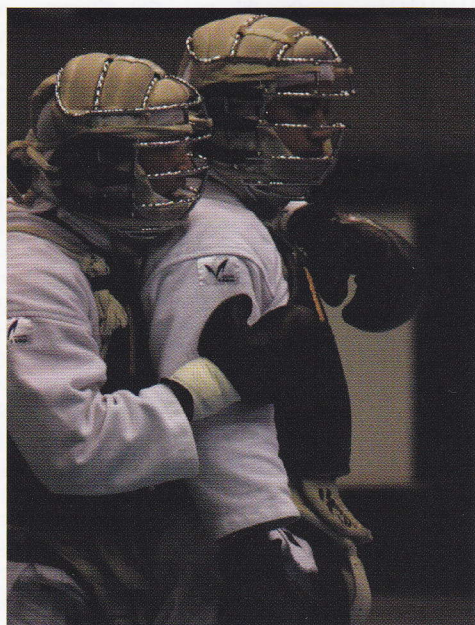
参将 加藤 0-2 谷村○

副将 後山 0-1 友中○

大将 矢島 0-2 西浦○

▼順位 ①関大 ②明大 ③中大

※尾川、敢闘賞



トキオ五輪（明大スポーツWWEBS）

